

企業情報

[HOME](#) > [企業情報](#) > [BIPROGYの企業活動](#) > [広告宣伝活動](#) > [BIPROGYバドミントンチーム](#) > [feature](#) > [男子チーム](#) > vol.13

BIPROGYバドミントンチーム

ニュース

選手・スタッフ紹介

試合結果

チームについて

ツイート

いいね！ 0

feature vol.13



2006年7月3日、全日本実業団選手権大会決勝戦、日本ユニシス対NTT東日本。
誰よりも熱く声をあげて応援していたのが、ルーキー斉藤元伸だった。

「新しく導入されたラリーポイント制には、サーブ権の移動がありません。自分のミスはすぐに相手の得点となってしまいます。これは選手にとって、相当なプレッシャーですよ。だから今回、僕は自分が戦っているような気持ちでチームを応援しました。少しは勝利に貢献することができたかな、と思っています。また、自分の所属チームが優勝するのはこれが初めてでしたので、とても嬉しかったですね。次はぜひ自分もコートに立ち、喜びを味わいたいと思いました」

試合にこそ出られなかったが、日本ユニシスの一員を実感した、忘れられない一戦となった。

斉藤のここまでの道のりを振り返ると、成長の陰には二つの出来事と一つの出会いが潜んでいた。

一つめの出来事。それは、中学時代に味わった、初戦敗退という苦い経験だ。
両親は二人ともプレーヤーというバドミントン一家に育った。しかし、あまりに身近にあったためだろう。小学生まで、バドミントンは彼にとって遊び道具の一つにすぎなかった。中学生になると迷わずバドミントン部に入部。そこはバドミントン実力校として知られる中学で、近くのジュニアクラブで育ったすでに力をつけている選手ばかりが集まっていた。1学年上には、いまや日本のエースとして知られる佐藤翔治（NTT東日本）もいた。そのため、斉藤は当初、同級生にまったく歯が立たなかったという。しかし、全国レベルの“力”を間近にしたことが、斉藤を着実に成長させていく。同級生や先輩たちに近づきたいと頑張るうちに勝てるようになり、3年で全国中学校大会ダブルスに初出場するまでになったのだ。しかし、結果は初戦敗退。

「このとき戦った相手が地区大会からずっと決勝で争って来たペアで、それまでほとんど負けたことがなかったダブルスだったんです。それなのに、肝心なところで負けてしまった。これには相当悔しい思いをしました」
この経験が、斉藤を“もっと強くなりたい”と本気で考えさせることになったのである。

そうして進学した高校で、恩師・大屋貴司監督（埼玉栄高）と出逢う。この名前にご記憶のある方も多いことかもしれない。元日本ユニシスのプレーヤーである。

「大屋先生はとても熱心な指導者でした。日本ユニシスの練習に連れて行ってくれたり、自分が高校生の頃はどんなふうにして頑張ってきたかという話をしてくれたり、本当にたくさんのことを教えてくれました。だから、実は、高校生の頃から日本ユニシスは憧れのチームで、ここに入ることが目標でした」

いい指導が好成績を導き、高校では全日本ジュニアダブルス準優勝、全国高校選抜準優勝、インターハイ8強と全国に名を連ねていったのである。

その後、日大に進学。インカレ個人戦ではダブルス3位の成績を出した。しかし、団体戦ではあと一步のところで日体大に阻まれ、4年間ずっと準優勝という成績に終わった。この敗退もまた、斉藤を成長させる大きな要因となった。

「特に4年のときは僕がキャプテンだったので、なんとしてでも今年こそは絶対にタイトルを獲りたいと試合に臨みました。でも、やっぱり負けてしまった。あと一つ、どこが足りなかったのか…。考えに考えました。それで出た結論は、やはり4年間、2位という成績をどこかでひきずっていたのだろう、ということでした。気持ちの部分で負けた部分



HOME

ソリューション

事例紹介

サステナビリティ

株主・投資家情報

企業情報

採用情報

お問い合わせ

もあったかもしれないと。より強い気持ちが大切なのだとつくづく感じさせられました」

コートに立つと「ガッツ系」。声をあげ、その熱さで周囲を魅了していく。しかし、コートを降りた斉藤は物腰がやわらかく、落ち着いた雰囲気を持つ。趣味は小さな幸せを探すこと。満員電車で席をみつけたり、縁起のいい数字の買い物をしたり、そんなささやかなことに幸せをみつける、穏やかな青年だ。

現在の課題は、プレーを進化させること。ミスを減らし、足腰を鍛えることが、これから戦うコートで必要とされていることだと感じている。

「といっても、ラリーポイント制になってから公式戦にまだ出ていません（*）。実際に試合に出れば、また自分に何が足りないのか、見えてくると思います。まずは新しい試合方式を体験し、早くそのスタイルになれること。そこからうまく自分のプレースタイルを変え、進化させていきたいですね。また、社会人になってダブルスで組むパートナーも変わりました。一つひとつの大会を精いっぱい戦って、全日本総合に出られるように頑張ります」

自分のプレーを見て、観客席で一緒に熱くしてもらうのが斉藤の願い。
穏やかな彼が熱く弾ける瞬間は、まもなくやってくる。



*取材はランキングサーキットの前（7月下旬）に行われました。
（2006年8月30日掲載）

- ・ [小宮山 元インタビュー>](#)
- ・ [岩臨 峰生インタビュー>](#)

feature backnumber

< [feature vol.13](#)

[チームについて](#) [選手・スタッフ紹介](#) [試合結果](#) [ニュース](#) [ルール解説](#) [LINK](#) [お問い合わせ](#)

企業情報

BIPROGYについて

[トップメッセージ](#)[会社概要](#)[Vision2030・経営方針（2021～2023）](#)[コーポレートブランド](#)[グループ会社](#)[拠点所在地](#)[組織図](#)[役員一覧](#)[企業理念](#)[企業行動憲章](#)[調達・購買に関する指針等について](#)[BIPROGYグループの歴史](#)[ニュースリリース](#)[株主・投資家情報](#)[採用情報](#)

BIPROGYの企業活動

[サステナビリティ](#)[広告宣伝活動](#)[セミナー／イベント](#)[出版物](#)[デジタルメディア BIPROGY TERASU](#)[実業団バドミントン部](#)[BIPROGYグループアンバサダー](#)[東京ディズニーランド「エレクトリカルパレード・ドリームライツ」](#)[東京ディズニーシー「フォートレス・エクスプロレーション」](#)

BIPROGYの研究活動

[BIPROGY総合技術研究所](#)[Technology Foresight](#)[技術論文BIPROGY技報](#)[BIPROGY研究会](#)

[ご利用にあたって](#) > [個人情報保護について](#) > [情報セキュリティ基本方針](#) > [ソーシャルメディアポリシー](#) > [サイトマップ](#) >



Copyright © 2023 BIPROGY Inc. All rights reserved.



TOP